

東胆振・日高で初の「緩和ケア病棟」を開設 内科・リハビリテーションの基幹病院



上肢リハビリ装置「CoCoRoE AR²」を利用した訓練



在宅復帰を目指した日常生活訓練～リハビリロボットスーツ「HAL」を利用した訓練



緩和ケア病棟の病室(個室)



音楽療法の風景



理事長・院長 橋本 洋一

1980年札幌医科大学医学部卒業。同年北海道大学医学部附属病院脳神経外科。82年旭川赤十字病院脳神経外科。83年北大医学部附属病院脳神経外科勤務。88年北海道大学医学部大学院卒業。89年苫小牧東病院開設。北海道医師会常任理事。北海道病院協会常務理事・日胆支部理事。日本リハビリテーション病院・施設協会常務理事。日本リハビリテーション医学会専門医。日本脳卒中学会専門医。日本老年医学会指導医。日本糖尿病学会専門医。日本感染症学会専門医等。医学博士。

苫小牧東病院は、1989年の開院以来、東胆振地域の内科・リハビリテーション基幹病院として、地域医療に大きな役割を果たしている。一般(急性期)病棟、回復期リハビリテーション病棟、緩和ケア病棟、医療療養病棟の6病棟。合計260床を抱え、病棟ごとに異なった機能を持たせ、患者の病態に合わせた治療体制を構築している。

中でも回復期リハビリテーション病棟は、2病棟104床。リハビリスタッフは80名体制で、より質の高いリハビリの提供に努めている。訓練室でのリハビリ以外にも在宅復帰を目指した日常生活訓練プログラムを実施。それぞれの患者に合わせて多職種が共同でプログラムを作成し、日常生活の質の向上につながる訓練を進めている。また、特色のあるリハビリとして、「歩行アシスト」「HAL」

「上肢リハビリ装置」などロボティクスの導入も積極的に行っている。

緩和ケア病棟は、主にがんの痛みや、心の辛さなどが少しでも緩和されることを目的としている。15床全て個室で車いす対応のバリアフリー仕様トイレや洗面所、ベッド、可動式テレビを備える。医師をはじめ看護師らスタッフ及びボランティアによるチーム医療の提供に加え、音楽療法も導入している。病棟内では患者が少しでも自宅の中で過ごしているような雰囲気づくりを目指している。

また、増加する痛みを伴う症状や、がん患者に対応するため、ペインクリニック外来と緩和ケア外来にて、診察を行っている。

橋本院長は「予防、回復、維持、終末の4本柱での支援に力を注ぎ、地域の中で安心して暮らせる取り組みにさらに力を入れていきたい」と話している。

社会医療法人 平成醫塾 苫小牧東病院

☎(0144)55-8811



苫小牧市明野新町5丁目1番30号

←ホームページはこちらから

内科・リハビリテーション科・消化器内科・循環器内科・呼吸器内科・リウマチ科・放射線科・ペインクリニック内科・緩和ケア内科・麻酔科

診療時間 / 月～金曜 / 9:00～16:00
休診日 / 土・日・祝日・年末年始
※健康診断は予約制です。

